



お互い様に助け合う 自治のまちを推進します

寒中お見舞い申し上げます。本年もよろしくお願い致します。昨年10月以降、新型コロナウイルス感染症が影を潜め、終息に向かっているのかと思われましたが、新たな変異株オミクロンの出現によりこの淡い期待は打ち砕かれてしまいました。今年も当面はコロナとのお付き合いを余儀なくされそうです。

「一年の計は元旦にあり」と言われますが、今年も先の市議選において掲げた政策を改めて確認し、今年の目標を考えています。どれも大切にしたい目標なのですが、「お互い様に助け合う自治のまちを推進」に力を入れたいと考えています。自治とは、文字どおり自ら治めることであり、自分たちのまちのことは自分たちで決め、運営することです。しかし、実際には市民生活を左右する条例や予算を審議し、決めるのは市民に選挙で選ばれた議員であり、議会の決定が市民の決定である

と見做しているわけです。これらを形式化しないためには、市民と議員との活発なコミュニケーションにより市民生活の課題が整理され、共有されること、議員間で様々な角度からの議論が公開の場で行なわれ、一定の合意を導き出すことが必要です。「議会報告会・意見交換会」の充実、議員間討議の活発化とそれらの公開が一層求められます。

大貫 毅 (タケシ)

当たり前の日々の暮らしを支えるために

—「大貫タケシのまちづくり指針」—

☆あるモノ探しのまちづくり

- ・今ある資源（森、文化、風土、ものづくり）を生かした地域経済の活性化。
- ・6次産業化・農商工連携の推進。
- ・シェアリングエコノミーの推進。
- ・地域の誇りを育むふるさと学習の充実。

☆便利な田舎「かぬま暮らし」の推進

- ・移住・定住の促進。
- ・空き家の利活用促進。
- ・仕事も趣味も充実、「かぬま暮らし」モデルの提案。
- ・若者の地元企業への就労促進。

☆誰も置き去りにしないまちづくり

- ・子育て支援の充実。
- ・障がい者、高齢者の生活を支える福祉の充実。
- ・交通弱者を生まない地域公共交通の充実。
- ・いじめ・不登校・引きこもり問題への対策。

☆お互い様に助け合う自治のまちを推進

- ・市民協働の推進。
- ・コミュニティセンターの機能強化。
- ・市政・市議会への市民参加の促進。
- ・シチズンシップ（市民性）教育の充実。

☆多様性を認め合う寛容なまちづくり

- ・こども・高齢者・障がい者・LGBTなどすべての人権を守る。
- ・発達障害など特別支援教育の充実。
- ・平和行政の推進。
- ・多文化共生、男女共同参画の推進。

タケシの議会報告

11月24日から12月20日まで、令和3年第4回定例会（12月議

会）が開催されました。令和3年度一般会計、下水道事業会計の補正予算、指定管理者の指定、鹿沼市重度心身障害者医療費助成に関する条例、鹿沼市花木センター条例の一部改正などにつ

いて、審議を行い決定しました。

市政一般質問では「第8次総合計画」
「行政情報の活用」「リーバス・お買い物のバス」「さつきマラソン」について一般質問を行いました。
以下、一般質問の内容、議会で決定された事項について報告いたします。

市政一般質問



なかの質問しました。

このプロジェクトの背景には、人口減少が加速し、市街地においては、空き家、空き地の増加により賑わいのが失われ、山間部などでは、商店の減少などにより、日常生活にも支障が生じていることなどがあります。

このプロジェクトが目指しているのは、人口減少が避けられない中、都市機能と集落機能を集約し、それらを公共交通やデジタル、地域住民、団体、企業などの多様な主体でつないで上手に縮んでいき持続可能なまちを作るといえるものです。特に、今後、強化されるべき領域として、NPOや民間企業のCS

R活動などの共助の仕組みとしていきます。

少なくとも今後五〇年、六〇年の人口減少は避けられない現実であり、上手に縮むといった方向性は理解できますが、縮んで、縮んで最後は消滅してしまう地域も生じてしまうのではなにかとの危機感が私にはあります。企業のCSR活動をとり込むにしても主体である地域住民がどのような地域を目指すかの目標が必要ですし、行政がどれだけ後押しできるのかが問われるように思います。このプロジェクトの今後の展開を注目し、意見反映していきます。

◆行政情報の活用

「ソサエティ5・0」とか「DX（デジタルトランスフォーメーション）」とか世の中はデジタル技術の活用がブームとなっていますが、ブームに踊らされることなく、市民サービスの向上に資する実のある取り組みが求められると考えています。各部署に偏在している行政情報を、デジタル技術などを活用して統合、利用することをどのように考えているのか伺いました。

導入予定の総合窓口システムでは、転居、出生、死亡等において必要となる手続きを迅速かつ正確に行えるよう介護保険、国民健康保険、子育て等に関する情報を集約し活用する。さらに、相談業務でも情報の統合により、市民が抱える課題の総合的な支援が可能となることなどが示されました。また、情報の統合にネックとなる個人情報扱いについては、令和五年春より、自治体ごとの条例による運用から法律に基づく全国統一のルールとなる予定であり、必要な準備を進めていくとのことでした。

◆お買いものバス

リーバス「まちなか線」が「お買いものバス」に改編されて1年が経過しましたが、逆回りを希望する声もあることから今後の考え方を聞きました。

5月に利用者のアンケートを実施したところ、逆回りを希望したのは利用者の16.7%であり、逆回り便導入とはならず、継続して様子を見ることになっているとのことでした。

今後、中心部の重複路線の整理などを検討するとのことですので、引き続き利用者の声を踏まえて意見反映していきます。

◆ちひやみラン

今年は、これまでの市街地を走るコースで、県民限定で5月8日に開催される予定です。コースと定員は、10km1,500人、5km1,500人、親子2km1,800人です。フルマラソンの設定を求めましたが、交通規制などの課題があり難しいとの答弁でした。

◆第8次総合計画

次期総合計画（第8次）では、重点プロジェクトとして「上手に縮む多核連携型拠点プロジェクト」が示されていますが、どのような考

◆コロナ対策

●子育て世帯への臨時特別給付金は10万円一括給付へ

国の方針が定まらず、市の方針も議会中に変更がなされることになりましたが、最終的に12月23日に10万円が一括給付されることになりました。また、その後、新聞報道等でも明らかにされたように、所得制限も撤廃されることとなったようです。

●3回目ワクチン接種へ



令和3年12月から医療従事者を対象に3回目のワクチン接種が開始されました。1月から順次接種券が発送になり、2月から接種が開始され、7月には完了する方針が示されました。接種方法は1、2回目同様、集団接種（出合いの森、高齢者・障害者トレーニングセンター）と個別接種（市内の病院、クリニック）で行なわれます。電

話、ネットで事前予約することも同様です。使われるワクチンは、集団接種はモデルナ製、個別接種はファイザー製となるようです。

1、2回目の接種がまだの方は、医療機関で接種を受けることができます。

◆条例改正・その他

●子どもの遊び場「いちごっこ広場」有料化へ

花木センター内に整備された子どもの遊び場「いちごっこ広場」が令和4年4月1日より有料化されることになりました。料金は次の通りです。

- 1歳以上 1回100円
 - 障害者 1回 50円
- ただし、コロナ禍での経済

状況等を踏まえ、新型コロナウイルス感染症が落ち着くまでの当分の間は、利用料金を減免扱いとし、無料とするとの方針が示されました。

●やまびこ荘の指定管理者、希望の家へ

やまびこ荘など市の施設5カ所について、指定管理者の指定がされました。やまびこ荘については、今回初めて公募による指定管理の募集が行なわれ、社会福祉法人希望の家が審査の結果指定管

施設名	指定管理者
やまびこ荘	社会福祉法人 希望の家
千手荘	鹿沼市社旗福祉協議会
花木センター	鹿沼市花木センター公社
花木センター (いちご園)	農業生産法人かぬま
市民文化センター	かぬま文化・スポーツ振興財団

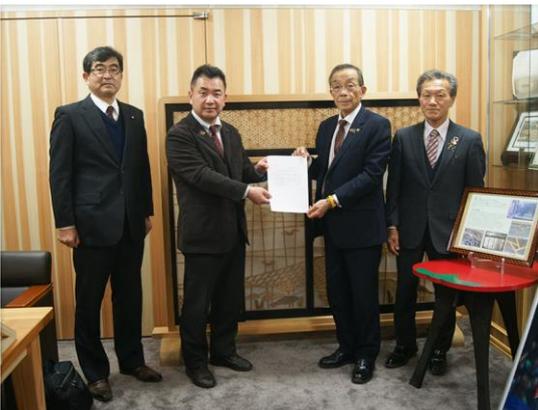
理者に選定されました。今まで、入所者と管理者との信頼関係が不可欠との理由から非公募としてきた経緯もあり、そのことがキチンと担保されるべきこと、今までの職員の雇用が守られることなどを指摘させていただきました。しっかりと対応するとの答弁を受け、議案には賛成を

●重度心身障害者の医療費助成、精神障害者も対象に

令和4年4月1日より、重度の身体障害者（身体障害者手帳1、2級）、重度の知的障害者（療育手帳A1、A2）に加えて精神障害者（精神障害者保健福祉手帳1級）も医療費助成の対象となります。鹿沼市は現物給付の方式を採用していますので、65歳未満の方は、市内の医療機関では保険診療内の医療費は窓口での自己負担は無くなります。歯科診療、整体・接骨院での診療、市外の医療機関での診療、65歳以上の方は、一度自己負担を支払い、市に医療費助成の申請を行なう必要があります。

鹿沼市へ政策提言書を提出

12月24日、鹿沼市に対し、立憲民主党鹿沼市支部として政策提言書（※4面に掲載）を提出しました。県・市の議会が終了後、4回のタウンミーティング（対話集会）を開催してきましたが、その際に市民の皆さんから頂いたご意見を元に政策提言としてまとめたものです。これらの提言は新年度予算をはじめ、市の施策に反映いただけるよう要請し、2月4日までの回答を求めました。今回のタウンミーティングやマナーレポートなどで回答について報告し、議論を頂きます。



鹿沼市に対する政策提言書

立憲民主党栃木県鹿沼市支部

- ① 近年の多発する自然災害に対応するためには、自主防災組織活動の充実が求められる。地域における避難所（緊急避難場所）の設置、防災マップの整備、防災訓練の実施など自主防災組織の活動を支援すること。それらの活動に対する補助を行なうこと。
- ② 通学路脇の民家の樹木等の管理指導と伐採を定期的に行うこと。特に、狭隘な道路脇のはみ出し樹木等が、交通事故発生の要因となりかねないとの指摘が市内各地であることから、定期的な道路パトロールと、危険箇所に関する樹木所有者への伐採指導を強化すること。
- ③ 各種委員会等の市民が参加する会議の際、開催場所の表示等が不明瞭であるため、開催場所に到達しない委員が発生している。新市庁舎完成までの暫定利用期間における、ていねいな庁舎案内表示、会議開催場所等の会場誘導について工夫を図ること。
- ④ 思川開発事業における導水路工事が本格化することに伴い、工事流域の地下水問題が心配である。仮に地下水の問題等が発生しても万全の対応がとれるよう対策窓口の設置など体制整備を行なうこと。
- ⑤ 東武新鹿沼駅西口への公衆トイレの設置について、依然、鹿沼市への登山等の来訪者からトイレ設置を求める声が多く寄せられている。将来的な西口整備の視点も踏まえ、改めてトイレ設置を検討すること。
- ⑥ 富屋特別支援学校鹿沼分校については、栃木県と鹿沼市の役割分担のもと、環境整備が進められてきたことを現地調査において理解している。そのうえで、学校環境整備について以下の点を要望する。
 - ・職員駐車場の敷地への誘導路付近が暗いので、防犯上必要な照明設置を行うこと。
 - ・児童生徒が戶外遊びをする場所の確保を西中と協議のうえ、西中敷地内校庭の一角などを利用の上確保すること。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策として、3回目ワクチン接種の早期に行なうこと。また、医療従事者、高齢者、基礎疾患のある方など優先接種をすべき方々について早期に決定し、事前周知を行うこと。
- ⑧ 2021年米の概算金下落が農家を直撃しており、関係団体と協議し、適切な対策を講じること。特に、青色申告農家に対し、新型コロナウイルス関連交付金などを活用し、収入保険加入促進のための補助制度を創設すること。
- ⑨ 市では「鹿沼市気候非常事態宣言」を表明し、2050年に「脱炭素社会」を目指すとしているが、県でも、2022（令和4）年度を目標に、脱炭素条例を制定する計画である。これらの動向を踏まえ、市民、関係者等と共にオールかめまで事業促進が図れるよう鹿沼市版脱炭素条例の制定を早急に検討すること。
- ⑩ ウッドショックと表されるような世界的木材価格の高騰により、外国産木材の確保が困難な中、伐期を迎えた地場産材の有効活用が必須であり、そのためには森林に木を植え育て、伐採し、搬出、製材、乾燥、加工、流通と、長期にわたる計画的な生産体制の構築が求められる。川上・川中・川下の鹿沼市の木材流通の流れをチェックし、将来的な視点で設備投資を踏まえた木材関連施設の整備計画を策定すること。
- ⑪ 黒川に流出する鹿沼市街地の用水路等に関する内水整備を促進すること。特に自然災害が頻発する中、鹿沼市街地の内水路については、いわゆるバックウォーター災害が頻発している。そのため、既存の用水路の整備状況の点検、災害発生要因の研究、並びに、災害発生箇所を踏まえた中長期的な内水路整備計画を検討すること。
- ⑫ 投票率低下実態を踏まえ、高校生等の投票率向上のために、来年執行予定の参議院議員通常選挙を念頭に、市内4高校における期日前投票所の設置を検討すること。
- ⑬ 文化行政の充実強化を図ること。特に、「鹿沼市芸術文化振興基金」の充実強化、並びに鹿沼まるごと博物館中央館や市立美術館の整備を検討すること。
- ⑭ 電通ダイバーシティ・ラボによる、LGBTを含む性的少数者＝セクシュアルマイノリティーに関する大規模調査「LGBT調査2018」によれば、LGBT層の比率は8.9%、左利きの人とほぼ同じ割合である。LGBT当事者が安心して生活できるまちづくりを推進するため、自治体としてLGBTへの配慮や支援を行うことの宣言や条例、基本計画の策定を検討すること。
- ⑮ ふるさと納税（ガバメントクラウドファンディング）を活用した犬猫殺処分ゼロや地域猫活動を支援する仕組みを導入すること。
- ⑯ コミュニティスクールの導入促進を図るため、学校と地域をつなぐコーディネーターの育成、各学校への配置を積極的に進めること。
- ⑰ リーバス「お買い物バス」の逆回り路線の導入など利便性を向上すること。
- ⑱ 栃木県及び小山市で制定された犯罪被害者支援条例及び見舞金制度を本市でも制定をし、総合的な犯罪被害者支援を行なうこと。

大貫タケシ・プロフィール

生年月日 1960年9月26日生（60歳）

○学歴

西大芦西小学校、西中学校、鹿沼高校を経て
宇都宮大学農学部農業経済学科卒業

○職歴

1983年4月より28年間鹿沼市役所勤務（福祉課長）
2019年9月市議会議員当選（3期）



記事に対するご意見、市政に関する
意見・要望などございましたら、遠
慮なく下記までお寄せください。

TEL・FAX 0289-63-0265
携帯 090-7736-2017
メール takeshi@one.bc9.jp